

富山米訪 広がる目的

北陸新幹線開業半年

観光・仕事以外に続々

14日で開業から半年となる北陸新幹線によって、富山を訪れる人たちの目的が多様化している。観光やビジネスにとどまらず、観劇や学会、スポーツ観戦など開業前にはない広がりが見られる。東京と最速で2時間8分で結ばれるアクセス向上に加え、開業による北陸への注目度のアップや、各種団体の取り組みの成果が相乗効果を生み出したといえそうだ。

観劇

富山市のオーバード・ホールで5～7日に行われたミュージカル「レ・ミゼラブル」



大勢の観客が詰めかけた「レ・ミゼラブル」の富山公演 = 5日、オーバード・ホール

の富山公演。大勢の観客の中に県外ファンの姿もあった。東京都東久留米市の会社員、山田祐美子さん(35)は「交通の便が良くなったので、富山公演を見に行こうと思った」と話していた。

【本記1面】

11月に同ホールで行う「ミ&マイガール」の宿泊付きプランにも問い合わせが相次ぐ。ホールを運営する富山市民文化事業団が自主制作しており、プロの役者だけでなく市民も出演。専門誌などが取り上げ、首都圏でも知名度が上がったという。事業団の広報担当者は「新幹線開業とシリーズの周知の相乗効果ではないか」と分析する。

学会

全国規模の大型コンベンションも人の流動を生む。県観光課は新幹線開業を見据えて誘致活動を展開。2015年度は13件で、14年度の6件の2倍を超えた。4月には富山市内で26国・地域の約700人が集まる「北極科学サミット週間2015」があった。16年度は全国規模のコンベンションも誘致される見込みだ。

「富山湾の宝石」と呼ばれるシロエビの価格が上がっている。漁獲の減少に加え、開業効果で需要が高まっていることが背景にあるようだ。県農林水産総合技術センター水産研

新幹線効果でシロエビ人気

合が5月に開かれる。18年には国内で3カ所目の開催となる電磁波工学研究の国際会議の開催が決まっている。開業の追い風があったものの、今後は他都市との競争も見込まれるほか、英語対応の充実といった課題も残る。同

課の酒井コンベンション誘致班長は「参加者の記憶に残るように工夫し、次回につなげるのが大切」と話す。

観戦

「北陸新幹線の開業でスポーツ観戦の幅が広がった」と話すのは、NPO法人富山スポーツコミュニケーションズの佐伯仁史理事長だ。6日に富山市内で行われたサッカーJ3カターレ富山-A C長野

バルセイロ戦に合わせ、長野から新幹線を利用して試合観戦と富山の食を堪能する企画を初めて行った。参加者31人に行ったアンケートでは、全員が「富山にまた来たい」と回答したという。佐伯理事長は「観戦と観光を結びつけて「おもてなし」を添えれば、リピーターは増える」と言い、今後も企画を続けていきたい考えだ。(社会部・島津あかね)



富山湾の宝石 2～3割高

研究所によると、シロエビの漁獲量は減少傾向にあり、ことし4～8月は274トンで、昨年同期に比べ約15％少なかった。ある漁業関係者は「浜値はあまり変わらない。新幹線開業で注目が集まり、卸値や小売り価格が上がっているのでは」と言う。

200匹のむき身を炭火で焼いた「福団子」が人気の料亭「松月」(富山市岩瀬町)。仕入れ値は昨年より2～3割上がったというが、「団子に使うシロエビを減らすわけにはいかない。価格は据え置いているが、もうざりざりだ」と嘆く。

JR富山駅高架下にある商業施設「まこと市場」とマルシェの白えび亭は9月から「原料価格の高騰」を理由に天丼や刺身セットなどのメニューを2～3割ほど値上げした。

大阪屋ショップ赤田店(富山市赤田)でも9月に入り、小売り価格を若干引き上げた。買い物中の市内の主婦(59)は「よく夫からする。安くお酒に

白えびが盛り込まれた富山湾の宝石。9月1日より販売開始された。